



島根大学医学部および県立石見高等看護学院の卒業生・合格者と市長との意見交換会を開催しました！

3月11日(月)に、益田市出身で令和5年度に島根大学医学部を卒業した学生1名(当日2名欠席)と県立石見高等看護学院を卒業した学生3名(当日5名欠席)が、市長と意見交換を行いました。

卒業生の皆さんは「大変だったが成長を実感できて良かった」と学生生活を振り返り、卒業後について「技術を身につけるために県外へ出ることも考えているが、将来は必ず益田に帰ってきたい」と意気込みを語りました。

島根大学医学部を卒業した学生は、4月から初期臨床研修医として益田赤十字病院に勤務しています。また、県立石見高等看護学院を卒業した学生は、4月から看護師として市内の病院に勤務しています。



また、同日、県立石見高等看護学院に地域推薦入試で合格した5名が市長と意見交換を行いました。

合格者の皆さんが「自分から積極的に関わってコミュニケーション能力をつけたい」「自分の将来に向けてやりがいを持って頑張りたい」と今後の抱負を述べたのに対し、市長は「学校以外でも楽しいことを見つけて、心身ともに健康で頑張してほしい」と激励の言葉を贈りました。



全国山城サミット 開催記念連載「益田の山城探訪」(全8回)

第2回 板井川城跡(いたいがわじょうあと)・宇津川城跡(うづかわじょうあと)

【問い合わせ先】

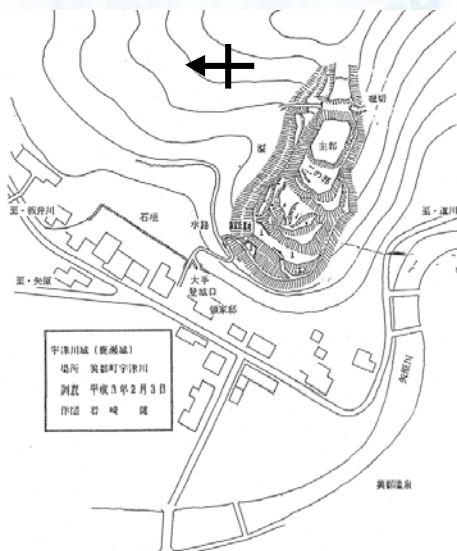
市文化振興課 ☎ 31-0623

今年11月16日(土)・17日(日)に益田市において「第31回全国山城サミット益田大会」が開催されます。これにあわせ、本連載では市内の代表的な山城を紹介いたします。

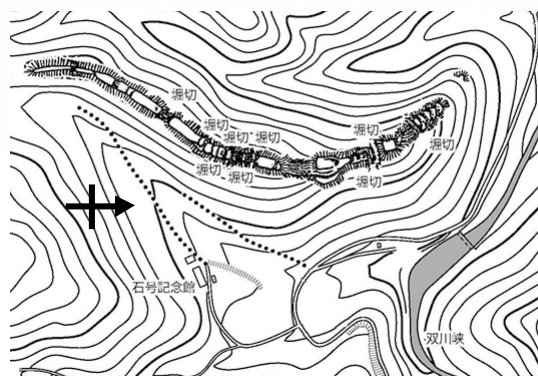
美都町の板井川と宇津川には、それぞれ板井川城跡と宇津川城跡があります。

板井川城跡は、板井川の奥まった場所にあり、茶ノ木(わかぎ)・若杉(ももぢ)・芋原を経て安芸国(広島県西部)に抜ける街道が麓を通ることから、この街道を通って攻めてくる敵に備えた城と考えられます。尾根を分断する堀切(尾根伝いに攻められないよう、尾根を分断するように掘られた堀)が何重にも築かれた堅固な山城でした。南北朝時代の1341年と戦国時代の1561年に合戦が行われ、1561年の戦いで益田氏に攻略されました。

宇津川城跡は、宇津川のまちと矢原川を眼下に収める位置にあります。尾根の先端を要塞化して、主郭(中心となる平坦な面)の前面に曲輪(平坦にした面)が



宇津川城跡縄張図(岩崎健氏作成)



板井川城跡縄張図(岩崎健氏作成の図に加筆)

三段ほどあり、まちから見上げると威厳のある立派な姿であったと考えられます。また、主郭の背後には堀切があり、後方にも備えています。戦国時代の1556年、激しい戦いの末、益田氏に攻略されました。